

(様式1) 実践事例

学校名	川俣町立山木屋中学校	校長名	荒井 孝祐		
住 所	伊達郡川俣町字宮ノ脇 14 番地	児童生徒数	30名	学級数	3
T E L	024-538-1960	ホームページアドレス	なし		

少人数のよさを生かした基礎学力と活用する力の向上を図る学習指導

1 少人数指導の計画等

- (1) 小規模校のよさを生かして生徒一人一人の基礎学力と活用する力を高める授業づくりへの教師の意識改革を図る。本年度は、特に「適切な手立てを講じた学び合い」に視点をあてて授業研究に取り組む。
- (2) 少人数学級のよさを生かして、全教師が生徒一人一人の学習への取組状況と学習内容の定着度を的確に捉え、個に応じたきめ細かな学習指導、家庭学習に対する指導を行う。
- (3) 生徒が落ち着いて学習し学習効果が高まるような学級・学習集団をつくる。

2 実践の概要

(1) 教師の意識改革と授業の実際

①第3学年国語科 単元名「状況を読む」挨拶一原爆の写真に寄せて

- 本時の目標…第6連の内容について話し合い、詩に込められた作者の思いをまとめることができる。
- 授業の実際

手立て① 学習意欲を喚起する課題設定とまとめの工夫

- ・ 初読の疑問を基に学習課題を設定し、課題解決を行った後、学習内容を基にまとめの100字作文を書くことで単元を貫く言語活動を行った。

手立て③ 思考の共有と吟味の工夫

- ・ 小グループでの話し合い、全体での共有と吟味の活性化を図るために生徒の思考の流れを想定した、自分と他の生徒の考えを比較できるようなワークシートを工夫した。

○ 少人数指導に関わる教師の支援等

- ・ 有効な話し合いをさせるために、リーダーを配置するなど意図的に班を編成した。生徒達は、教え合いながらグループ活動をした。
- ・ 教師は、机間指導をして、まとめが書き出せない生徒に対しては、書き出しの文やキーワードなどのヒントを与えるようにした。
- ・ 一人一人の生徒の考えを付箋に書かせ、付箋を班のワークシートに貼りながら説明させ、話し合わせた。その際、全体に広めたい考えを取り上げ、価値付けたので、他の班でもよさに気づき、参考にしながら考えを練り上げた。
- ・ 教師は、机間指導で見取った生徒の考えやつぶやきを基に意図的な指名を行い、全体での話し合いをすすめたので、生徒達は積極的に発言した。
- ・ 授業後に生徒一人一人のワークシートを点検し、学習状況を把握するとともに評価を行い、朱書きで称賛した。

②第3学年英語科 単元名「Writing Plus 1」

- 本時の目標…友達が書いた英文を読んで、内容を確認し、コメントや質問ができる。
- 授業の実際

手立て① 学習意欲を喚起する課題設定とまとめの工夫

- ・ 海外アーティストにファンレターを書くという設定で、英文を書いたり読んだりしようとする意欲を喚起した。

手立て② 自立解決における見取りと支援

- ・ ヒントシート等を使って自力解決の場面を設定した。

手立て③ 思考の共有と吟味の工夫

- ・ 班で考えることで思考の共有や吟味する場面を設定した。

○ 少人数指導に関わる教師の支援等

- ・ 班内での教え合いや学び合いを活性化させるために、意図的に班編成を行った。生徒達は、積極的に活動した。
- ・ 他班の生徒が書いたファンレターを、班内で教え合いをさせながら読み取らせたり、他班の生徒からの質問やコメントに対して、班でファンレターの訂正や質問に対する答えを考えさせた。教師は、机間指導をして、難しい表現などがある教え合いや学び合いが進まない班に対して、助言を行った。班では、わかる生徒が熱心にわからない生徒に教え、みんながわかるようになるグループ活動ができるようになった。
- ・ 教師は、机間指導ですべての班の話合いの内容やつまづきを見取り、全体でいくつかのポイントを共有した。その際、できるだけ生徒に発言させるということを意識して、発問を工夫した。生徒は、他の生徒の発言を聞いたり、隣の生徒同士で確認したりしたので、つまづいた所が理解できたようであった。

③ 山木屋中学校が小規模校であることを本校の強みととらえ、各教科で生徒一人一人の基礎学力を高める授業づくりを進めていくよう促すとともに、全教科の授業において、生徒一人一人の活用する力を高めていく授業づくりを推進するために、校長から教職員に対して毎週金曜日に「校長より連絡」を配付している。そこでは、自校の課題や取組に関する指示だけでなく、教育全般に関する今日的な課題や社会の情勢に関する情報提供、全国学力・学習状況調査の過去の問題（特に B 問題）の紹介なども行っている。教職員は、「校長より連絡」を職員室の話題の一つになるほどよく読んでおり、授業づくりの意欲付けになっている。

(2) 個に応じたきめ細かな学習指導

学習習慣を確立させ、国数英理社の 5 教科の基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、家庭学習、朝学習、補充学習をサイクルとした実力 UP 学習を全学年で実施している。学級担任だけでなく、教科担当が家庭学習への取組の確認と朝学習、補充学習の指導を行う。少人数学級であることを生かして学習に関して教師と生徒のコミュニケーションを増やし、生徒一人一人の学習への取組状況や定着度を捉えるとともに称賛や助言を与え、学習意欲を引き出し学習習慣を確立させようと取り組んでいる。

< 方法 >

- ・ 帰りの学活で教科担当が準備した課題が生徒に配付する。
- ・ 生徒は家で配付された課題に取り組む。
- ・ 生徒は、翌日の朝学習で課題を提出し、同問題の確認テストに臨む。
- ・ 教科担当が帰りまでに採点し、不合格者は放課後に補充学習に参加する。
- ・ 補充学習の指導は、教科担当を中心に全教師が輪番で担当し、生徒一人一人のつまづきや疑問の解決を図る。
- ・ 休み時間等を利用して教科担当が個別に学習相談を行う。(教科の計画による) 授業以外での教師による学習指導により、教師と生徒とのコミュニケーションがより一層図られ、教師と生徒との良好な関係の維持につながり、学習内容に関して教師に質問する生徒も見られるようになった。

(3) 学級・学習集団づくり

生徒一人一人の生活や学習上の悩み、不安を的確に捉え、適切な解決を図り、生徒本

人が意欲的に学校生活を送るとともに、学習の基盤である望ましい学級集団・学習集団をつくるために、スクールカウンセラーによる全生徒の二者面談を実施した。

カウンセリング後は、全教師で情報を共有し、必要に応じて対応や解決策について協議している。生徒はカウンセラーや学級担任に素直に気持ちや考えを話すようになってきた。

### 3 実践の成果と課題 (○成果 ●課題)

#### (1) 教師の意識改革

- 少人数学級であることを生かし、各教科の授業で、生徒のつまずきに応じた支援をしたり、できるだけ生徒に発言させることにより、個々の生徒の活用力を高めることを意識した個に応じた指導が展開されるようになってきた。また、全国学力・学習状況調査の過去の問題を定期的に取り上げることで、習得と活用の方が意図的に設定された授業づくりについての意識化が図られ、日頃の授業や個々の生徒の学習の取組について、教師同士での情報交換や相談が職員室内で頻繁に交わされるようになった。
- 少人数指導のよさを踏まえた授業づくりについては、より一層その意義を教師がよく理解し、授業づくりを進める必要がある。また、活用を考える上で、基礎的・基本的な学習の定着の不足を感じている教員が多い。生徒一人一人の学習への取組と定着度の分析をさらに進め、日々の授業実践の中で、習得したことが活用され、活用の中で習得がより強化されたり理解が深まったりするような、習得と活用が有機的に結び付いた学習が継続して行われる必要がある。

#### (2) 個に応じたきめ細かな学習指導

- 全教師が生徒一人一人に関わる機会が増え、学習への取組状況や定着度を授業やテストとは違った形でとらえることができたので、各教科の授業において、個に応じた指導がさらに図られるようになった。また実力 UP 学習は、家庭での学習内容について事前に具体的な指示を行って進めているので、生徒が見通しをもって学習に臨むことができた。確認テストが毎日実施されることで、少しずつではあるが達成感を味わわせることができた。
- 基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、前日に家庭で取り組む学習内容と朝学の確認テストの内容を同じものになっている。そのせいか、確認テストのために単純に答えを暗記するだけのその場しのぎの学習になり、学習内容の確実な理解や定着がおろそかになってしまう生徒もいた。また、教師が手をかけることが多い分、生徒の学習への自主性が十分でないと感じている教師もいる。

#### (3) 学級・学習集団づくり

- 全生徒の二者面談を実施することにより、学級担任とは別な専門的な立場からの見解や意見も生徒指導や集団指導に生かすことができた。生徒一人一人が置かれた状況を的確に捉え、必要な手立てを組織を挙げて検討し実行に移すにあたり、全生徒の二者面談は有効であると実感している。